

「障がいのある人が地域で働くとは」

大阪教育大学 准教授

「今枝 史雄」

2024年6月号の人権ほつとは「障がいのある人が地域で暮らすために」でしたが、今回は「働くとは」に焦点を当ててお話ししたいと思います。厚生労働省の令和7年度障害者雇用状況調査によれば、民間企業で働いている障がいのある人の数は70万4610名で、過去最高を記録しました。さらに実際の雇用率（働くことを希望する人のうち実際に雇用されている人の割合）も24.1%で過去最高となり、民間企業で働く障がいのある人は多くなっています。筆者はこうした民間企業や障がい福祉サービス事業所で障がいのある人と関わりますが、普段の生活で「障がいのある人の働く」を感じるのは、障がいのある人が作ったクッキーを食べるときです。お気に入りクッキーがあるのです。特別な場所では買えるのではなく、

地域でも売っていることも多いです。

障がいのある人が働く、働き続けるために何が必要なのか？周囲に理解者がいること、周囲のサポートなどが整備されるべきだと思います。しかし、大事なことの一つに「健康」があります。企業で話をしていると「お昼はカップラーメン、野菜は食べないのかしら」「昨日も遅くまで起きていたそうで」といった栄養管理、生活リズムに関する相談を受けることがあります。筆者も遅いかもしれませんが、運動など、健康に気をつけるようになってきました。これは障がいのある、なしにかかわらずです。障がいのある人はできれば働く前から健康に関する相談相手を作っておくことが必要です。学校卒業の時点で「え、健康には何も心配ないし」と思っても、働き続けるためには必要なのですね。学校時代に「子どもたちの大人になっ

た姿を思い描きながら関わる  
ことが大切なのは「働く」  
においても同じなのです。